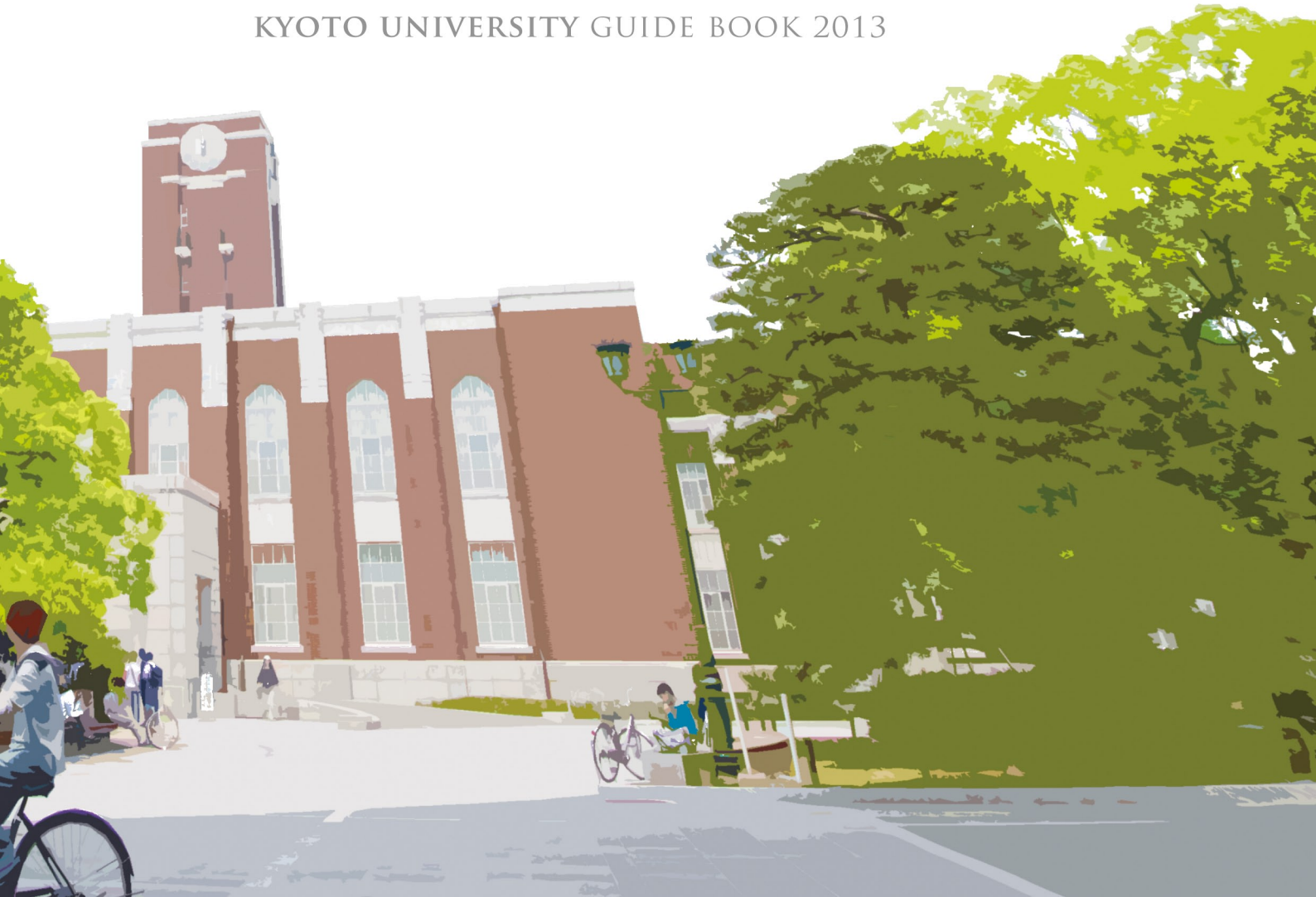
INVITATION TO WISDOM AND FREEDOM

知と自由への誘い

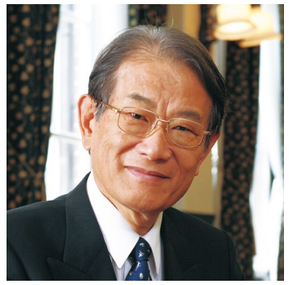
京都大学 | 大学案内

KYOTO UNIVERSITY GUIDE BOOK 2013



Message from the President

地球社会の共存に貢献せんとする高い志をもつみなさんへ



京都大学総長
松本　紘

本年で創立 115 年を迎える京都大学は日本を代表する総合大学として 10 学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群も擁しています。また，「対話を根幹とする自学自習」を尊重する特色のある世界最高水準の大学教育を提供しています。これまで累計で 191,105 名の卒業生を世に送り出し，多くの卒業生が学術分野のみならず，産業界，官界など様々な分野で大いに活躍しています。

みなさんが京都大学で学ぶことはなにものにもかえがたい経験となるはずです。みなさんは行政・政治・経済の中心から一定の距離をおく京都に暮らし，学生生活をおくります。世界都市・京都の内懐に抱かれ，千年以上続いた日本の文化や伝統を肌で感じつつ，それを革新していく姿勢を京都の地で学ぶことになるのです。古典から現代先端技術にいたるまでの幅広い知識を身につけ，大局的にものを見，自由に発想できるようになるためには，旺盛な知識欲を満足させうる優れた教育環境と学んだことを我が物とする沈潜の時が必要です。現に各界で活躍する卒業生は，京都大学で学んだからこそ，学問を通じて，学問の源流や本来あるべき人間社会の姿というものに思いをはせつつ，確固たる人生の礎を築くことができたと異口同音に語っています。

京都大学においては，人文学，社会科学，自然科学の各分野で様々な独創的な研究がなされています。本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており，霊長類研究や iPS 細胞研究などはその一端を示すものにすぎません。京都大学においては 1 年生からの少人数ゼミ「ポケットゼミ」を通じ，独創的な研究を行っている研究者から最先端の研究の手ほどきを受けることができるでしょう。

人間は地球上の小さな存在ながら，その行いが地球全体の様相を変える可能性を秘めた存在です。その可能性と責任を胸に，将来世界的なリーダーとして地球社会の共存に貢献したいという高い志を持つみなさん。自由で知的刺激にあふれた大学，京都大学はみなさんの未来の飛翔のための翼を与える大学でありたいと総長として願っています。

京都大学の基本理念（抜粋）

京都大学は，創立以来築いてきた自由の学風を継承し，発展させつつ，多元的な課題の解決に挑戦し，地球社会の調和ある共存に貢献するため，自由と調和を基礎に，ここに基本理念を定める。

教育

京都大学は，多様かつ調和のとれた教育体系のもと，対話を根幹として自学自習を促し，卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は，教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ，地球社会の調和ある共存に寄与する，優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

（平成 13 年 12 月 4 日制定）

京都大学アドミッション・ポリシー

京都大学は，古都の文化を育んできた京都の地に創設された国立の総合大学として，社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から 1 世紀以上を経た 21 世紀の今日も，建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら，教育，研究活動をおこなっています。

京都大学は，教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は，学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ，同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら，主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら，自らの努力で得た知見こそが，次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため，京都大学は，学生諸君に，大学に集う教職員，学生，留学生など多くの人々との交流を通じて，自ら学び，自ら幅広く課題を探求し，解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに，その努力を強く支援します。このような方針のもと，優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため，自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は，その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して，多様な世界観・自然観・人間観に基づき，自由な発想から生まれたものであると同時に，学問の基礎を大切にする研究，ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。そのため，入学を希望する諸君に京都大学が望むのは，まずは高等学校までの各教科・科目をしっかりと習得しておくことです。そのようにして身につけられた基礎的な学力があってはじめて，入学者は，京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ，自らの自由な発想を生かしたより高度な勉強へと進むことが可能となります。

京都大学では，各学部がその理念と教育目的に応じ，入学者選抜試験における教科・科目を設定しており，明確な目的意識をもった人の入学を求めています。新たな勉強のために必要な基礎的学力を充分に備え，大学の学風と理念を理解して，意欲と主体性とをもって勉学に励むことのできる人を，京都大学は国内外から広く受け入れます。

京都大学の初代総長木下廣次は，履修科目の選択肢を広げるなど，学生の自立性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において，木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。

知と自由への誘い
京都大学 大学案内 2013

CONTENTS

2　対談
「社会のリーダーを育てるために」

京都大学の教育
6　京都大学の教育システム
8　京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」
10　活力ある教育の場の形成と，環境の充実を目指して
11　京大生の一年
12　ポケット・ゼミ

教育を支える施設
24　情報環境機構
26　図書館

さらなる飛躍を支援
28　国際交流
30　大学院進学
33　就職支援
36　ベンチャー起業

学生生活サポート
38　学生生活を支援する制度や施設
44　クラブ・サークル

学部紹介
48　総合人間学部
52　文学部
56　教育学部
60　法学部
64　経済学部
68　理学部
72　医学部
78　薬学部
82　工学部
86　農学部
90　教員の研究テーマ

京都大学のすがた
112 Voices
116 京都大学について
117 京都大学オープンキャンパス

入試関連資料・データ
118 入学者選抜実施状況について／合格者 最高点・最低点／出身高校等所在地別　志願者・入学者数
122 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧／入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法
124 キャンパスマップ・交通案内

社会のリーダーを育てるために
対話型の豊かな教養力で志を実現

京都大学は優れた専門能力を磨くだけでなく，対話と交流を通じて豊かな教養力を修得した社会のリーダーを育てることを目標としています。実際にどんな出会いや活動を通して学びを広げていけるのか。学生と先生方に座談会形式で語っていただきました。

ゲスト　京都大学理事（教育担当）・副学長／淡路　敏之
京都大学経済学研究科長・経済学部長／植田　和弘
京都大学理学部３回生／橋本　雄馬
京都大学農学研究科修士課程１回生／濱本　有希

司会進行　京都大学理事補（教育担当）／森脇　淳

バレーボール，点訳，学生生活で打ち込んだそれぞれの活動

淡路　京都大学の教育目標を一言で言うと，社会のリーダーを育てること。ですから学生時代に，幅広い交流活動を通して豊かな教養と人間力を身に付け，卒業後に社会で専門性を如何なく発揮できるよう努めてほしいし，そのような全人型教育を本学は重視しています。今日参加してくださったお二人は，そういう意味では勉強以外にも様々な経験をされていますね。

濱本　私は中・高とやっていたバレーボールを大学でも続けたいと思い，体育会のバレーボール部に入りました。でも私が入った時は部員がたったの３人で…。

淡路　３人では試合にも出られないね（笑）。

濱本　幸い，同期が８人入ってくれたおかげで春のリーグ戦には出ることができました。以後は毎年毎年部員が増えて，４回生の時には30人近くになりました。

森脇　京都大学は女子が少ないし，部員を集めるのも大変だっただろうね。

淡路　バレーボールをやっていたら，チームワークの大切さを実感されたでしょう？

濱本　ええ，私は主将も務めたんですが，リーダーとしての大変さも経験しました。

淡路　実社会では率先して問題を解決し，チーム一丸となって取り組んでいくリーダーシップが必要とされる。だから大学としてもそういう人を育てていきたいと思っています。

濱本　有希（農学研究科修士課程１回生）
京都大学では，机に向かって知識を身につけるだけでなく，研究や課外活動を通して問題に対処する力が鍛えられました。特に部活動では，異なる価値観をもった人が集まる中で，お互いの力を発揮し合い目標を達成することの重要性を体感しました。

植田　京都大学はバレーボール強いの？

濱本　女子は全国七大学総合体育大会で４年連続優勝しました。関西リーグは８部まであるんですが，私が入ったときは５部で，３回生の春と秋で連続昇格して今は３部です。

全員　ほ～，それはすごいね。

森脇　その活躍が認められて，京都大学体育会スポーツ表彰を受賞されたんですね。橋本君は大学に入ってから点訳を始めたの？

橋本　はい，点訳サークルの看板を見てたまたま興味を持って。ちなみに僕が入部した時，学部学生は３人でした（笑）。

淡路　なぜそれをやろうと思ったの？勧誘されたのですか？

橋本　大学へ入るまで点訳という活動すら知りませんでした。

植田　社会貢献という意識があったの？

橋本　最初はそうでした。今はカッコよく言えば，社会の「共活（ともに活かす）」という意識に変わってきました。今点訳しているのは漫画で，漫画の場合，言葉の部分だけじゃなく絵の部分，情景描写も点字で表していくんです。描写の仕方はみんなと話し合いながら決めていきます。

一同　ほ～

橋本　点訳以外にも視覚障害者との交流などの活動もやっています。

森脇　点訳サークルは総長賞を受賞しましたね。

橋本　長年のボランティア活動が認められてのことですから，先輩方の功績があってのことです。

クラブ・サークル活動で得た仲間との絆，さまざまな人との交流

森脇　サークル活動をすることで交友関係も広がった？

濱本　はい。それにクラブの友達とは結びつきが強いですね。何か決める時にぶつかり合うこともありますが，そういう時でもみんなで意見を出し合って解決してきました。

植田　僕も学生時代に経験したからわかるけど，クラブ活動をやっていると本音で語り合える仲間ができますね。

淡路　好きなことを通じてさまざまな人が集まっているクラブでは，いろんな考え方の人がいるので互いに刺激になるのでしょうね。

橋本　僕の場合，サークル活動で学部の先生と親交を深めることができました。サークルの先輩に広瀬浩二郎（国立民族学博物館・准教授）さんという方がいるんですが，視覚障害者向けに触って楽しめる展示やユニバーサルデザインなどに取り組んでおられる方です。その方を11月祭で講演に招いた時，講演を聴きに来られていたのが理学部の嶺重先生でした。嶺重先生は広瀬さんと一緒に視覚障害者向けの天文学の本を出されていたんです。早速先生とは視覚障害者のためのわかりやすい展示について，話し合ったりしました。

淡路　まさに京都大学の懐の深さを示す話やね（笑）。

植田　サークルやクラブ活動がいいと思うのは，いろんな学部の人，しかも同学年だけでなく先輩や後輩，４学年の人達と交流できるところ。

淡路　もっと上の人がビシビシ指導しているクラブもありますが（笑）。70，80才になっても仲間意識があるのも凄いですね。

植田　それも大学が作り出した貴重な資産「アセット」ですよ。

淡路　クラブやサークル活動ではいろんな人と知り合うだろうし，座学では学べないことがたくさんある。

橋本　社会福祉の分野ではそれは多分にありますね。

植田　異なる学部や出身者同士がぶつかり合い，また一緒に汗を流すということは新しい刺激になります。学生生活がとても生き生きと感じられるようになるでしょう。

淡路　周りにはいろんな地域の出身者がいる？

濱本　京大はやはり関西圏出身の人が多いですね。

橋本　学部には北海道から沖縄出身までいますが，総体的に関西出身者が多いかな。

淡路　昔はいろんな方言がキャンパス内に飛び交っていました。先日，東京大学の教育担当の先生とお話しした際，今では東大の学生も東京圏が３割，関東圏で５割を超えるそうです。だから昔のようにいろんな地域の出身者と触れ合う機会が減っていることに懸念を抱かれていました。

グローバル時代に求められる，対話を通して理解を深めていける人材

植田　地方出身者が減った分，留学生が増えてグローバル化しています。

淡路　世の中はグローバル化が進んでいて，経営の拠点も海外へ

橋本　雄馬（理学部３回生）
将来の道は決められていません。
自分の専門とは一見結びつかないところにも道は開けます。

移っている。それに伴って大企業でも積極的に外国人を採用する傾向にあります。だから勉強だけできる秀才型より，幅広い視野を持つ逞しい人材が求められています。異質な文化の中でもちゃんと自分の意見を言えて，相手の意見も聴きながら意見をまとめていける人。だから学生時代にいろんな体験をすることが大事なんです。

森脇　クラブ活動をやったからといって勉強する時間はちゃんとあるわけでしょ？

濱本・橋本　はい，もちろん。

淡路　京都大学の理念は対話と交流を通じて学びを広げていくこと。直接学業に結びつかなくとも，人と話すことで脳が活性化されるし，クラブ活動はアクティブラーニングに非常に役立つと思います。

植田　湯川秀樹先生がある講演で研究者の型について語っておられました。ひとつは組織型。大きな組織を動かして研究成果を上げる，ちょうど東京大学の小柴先生のようなタイプですね。もう一つは対話型。湯川先生が海外へ行って驚いたのは，研究発表の場では喧々諤々，まるで大ゲンカしているように見えるのに，一旦研究の場を離れると皆が実に和やかに会話していたこと。本気で議論するからこそ互いの異質な部分を認め合い，理解し合えるんですね。湯川先生自身は一人で考えて答を出すタイプだそうですが，これからは組織型，対話型の研究者が求められていると思いますね。

淡路　国際会議の場でも，海外の人はすぐ議論をふっかけてきます（笑）。でもそういうところに入っていけないと仲間になれないですからね。

森脇　数学でも「インターシティセミナー」という国際的な研究者の集まりが毎年ありますが，どの段階でファーストネームで呼び合うかは，結構重要なことですね。

淡路　先生はなんて呼ばれていますか？

森脇　もちろん，アツシですよ（笑）。最近 e-mail でのやりとりが増えていますが，メールで長々と説明することでも，会えば二言三言で伝わったりする。対話とは実際に顔を見て言葉を交わすことから始まるんだと思います。

植田　経済学的に言うと，自分が作ったものを相手に渡すと，与えた方はなくなる。しかし大学でやっていることは与えてもなくならない。例えば知識は教えたからといってなくなるわけではなく，むしろ与えることによって同じ知識を共有して対話が進む。大学で教え学ぶことは，ある意味大きな社会基盤を作っているのだと実感します。

淡路　私もやっぱり経済学をやるべきやった…（笑）。

植田　なぜ経済学を学ぶかと言うと，経済学者に騙されないようにするため（笑）。それくらい 100 人いれば 100 人が異なる議論を展開するのが経済学です。真理は一つという自然科学系とは違って，経済現象はいろんな解釈がありますからね。

これからもっと増えて欲しい，世界のルールメイキングに参加する日本人

淡路　柔道やレスリングが体格別で分けられているように，バレーボールも身長別にしたらいいのにね。

橋本　対戦する前に身長という面で不利益が生じているわけですからね。

濱本　でも身長で劣る分，どうやって勝つかを考えるところに面白さもあるんだと思います。

淡路　身長差があるから日本のバレーボールはクイックや時間差など，それをカバーする戦法で強くなった。でもその技術も追いつかれると通用しなくなる。それはスポーツも技術も同じことです。

植田　日本は石油などの資源が不足しているからこそ，それを補うべく能力を高め，技術が発達した。いわば人材が資源ですよね。

淡路　クイックも時間差も追いつかれたら，どう対処しますか？

濱本　う～ん，そうですね，サーブを強化します。

淡路　それはあくまでも技術上のことですよね。欧米人は自分達が勝てなくなったら制度を変えようとする。つまりルール改正を試みます。ノルディックスキーやジャンプもそうだったでしょ？

森脇　F-1 もそう。日本車が強いから規程が改正された。

濱本　なるほど…。

植田　その話は非常に示唆に富んでいて，みんなが活動する場のルールメイキングに日本人がたくさん参加していくことは，これからますます重要なことです。

森脇　点字は世界共通なの？

橋本　点字は国によって違いますし，手話も世界共通ではありません。昔から統合しようとする動きはありますがまとまっていません。日本の点字の場合，ひらがな表記になるので文章の区切りがわかりづらい。だから原則文節ごとに区切りを入れるルールになっているのですが，例外もあり，そのルールがあいまいで点訳者の主観に依ってしまう。

森脇　定義が曖昧というのは，理学者にとっては最も気持ち悪いことやね（笑）。

淡路　その点，経済学は人間世界と自然界，両方の合理性を追求する学問ですね。

植田　多くの経済学者が経済学を志した動機は，貧困をどうやったらなくせるか，という社会問題の解決を考えたから。例えば石油危機という現象も何か経済法則に基づいて起こっていると考える。経済法則を理解することで解決への手立てを見出していけます。

淡路　やっぱり進む道を間違えた…（笑）。

植田　最近の若い人達がいいなと思うのは，ビジネスと社会をうまく繋げているところ。東日本大震災でもいち早くファンドを立ち上げて復興を支援した。なんとかしたいという気持ちをワークしていく傾向は素晴らしいと思う。

淡路　ボランタリーベースな活動で，経済学者も巻き込んで社会が動くしくみを作っていかないといけませんね。

植田　それができていたら今，学者やっていません（笑）。

京都大学のスピリッツに基づき，それぞれの経験を活かして社会へ

淡路　今は世の中の羅針盤がわかりにくい時代ですが，お二人には社会へ出てからもそれぞれの経験を活かして充実した生活を送って欲しいと思います。

森脇　将来はどんな夢を描いているの？

濱本　私は理系ですが，農家が元気になるように文系的な発想でも貢献していきたいと思っています。たった 3 人の部員でしたが，自分が楽しくやることで周りを巻き込み，目標に向かってがんばってきたバレーボール部での経験もきっと社会に出て役立つと思います。

淡路　私も今漁業を手伝っています。どうしたら魚の好適棲息域を推定し予測できるか，統計学や確率論，最適理論等，利用できそうなあらゆる科学技術を駆使して調べています。

植田　農業や漁業などの手作業が多いと思われている分野にももっと学術的な成果が活かせると私も思っています。

淡路　楽しい漁業や農業を目指して，今や漁業は iPad が，農業には携帯電話が使われ始めています。

森脇　橋本君は将来どんなことをしたいの？

橋本　研究を進めていく方向もありますが，僕は教師の道も考えています。特に今の経験を活かして視覚障害者の特別支援学校で教えたい。視覚障害があると図形などの数学が苦手になる傾向があるんです。今教育心理学なども勉強しているので，理学部で得た知識と教育をうまく結びつけて教材を開発するなど，視覚障害者の進学や就職の支援をして世の中を変えていきたいと思っています。

淡路　学んだことを活かして新しい分野を拓いていく。まさに京大のスピリッツを体現していますね。

植田　教師になろうという人が出てくれるのは，とても嬉しいことです。

淡路　ステイタスだけを考えて勝ち組だなんて言う人が多い中，その考え方は素晴らしいですよ。

橋本　理学部らしくないと言われますが…（笑）。

淡路　そんなことはない。京都大学のスピリッツは過去の例に囚われることなく，新しいことにチャレンジしていくこと。本来理学部の精神もそうです。今でこそ当たり前になったけど，生物学と物理学を組み合わせた生物物理学教室などは画期的なもので，京都大学から始まりました。

森脇　大学に留まる研究者というのもごく少数ですからね。

淡路　だから理学部で学んだことを活かして，独自の分野で活躍しようとする姿勢は大いに応援したい。元気のない農家をなんとかしたいと思って飛び込んでいこうとする濱本さんも同様です。

濱本　決して自分一人の力でできるとは思っていなくて，周りの人と協調しながら目標に向かう大切さもクラブ活動を通じて学んだことです。

植田　グローバルリーダー的な考え方ですね。

淡路　東南アジアなど海外では食料確保のために農業生産に力を入れている。そういう意味では農業はグローバルに活躍できる分野です。その時バレーボールをやってきた経験は必ず役に立つ。自分たちの志を大きくしていける，京都大学とはそういう大学でありたいと思います。

森脇　今日は皆さんどうもありがとうございました。

淡路　お二人の話を聴いて安心しました。今日の皆さんの話を聞いて総長が一番喜ばれると思います。

あとがき

「今日は楽しかった！」座談会後に思わずそんな感想を漏らした先生方。最初は緊張気味だった学生達も，先生方のボケとツッコミに引っぱられ，どんどんトークがなめらかになっていきました。人数不足だったバレーボール部を 3 部リーグにまで押し上げた濱本さんのパワー，点訳に出会い，障害児教育への道を志すようになった橋本さんのチャレンジ精神。それぞれの学生達の活動ぶりに，先生方は清々しい感動を覚えていました。京都大学にはそんな生き生きとした学生生活を送るキッカケや刺激がたくさんある。今回の座談会を通して改めて学生の皆さんから教えられました。

淡路　敏之 理事（教育担当）・副学長

グローバル人材には専門力，教養力，語学力が欠かせません。京都大学では教員等との対話を根幹とした発展的自学自習を基礎に，総合力が身につくよう努めたいと思っています。

植田　和弘（経済学研究科長・経済学部長）

学ぶとは可能性への挑戦だということを実感しました。可能性を実現する対話の場，それが大学ではないでしょうか。

森脇　淳 理事補（教育担当）

京都大学で学ぶ，その背景には社会のために，人類のために貢献してほしいという国民の願いがあるということも，学生の皆さんは少なからず意識して欲しいと思います。